

1 年 D 組 保健体育科 単元設計・学習指導案

指導者 坪内 道広

1 日時（場所） 11 月 9 日（火） 8：50～9：40（1 年 D 組教室）

2 単元設計（単元名：体育理論「運動・スポーツの多様性」）

(1) 本単元で育成したい自立と共生の力

- 自分の気持ちや考えを表現し、伝える力
- 多様な価値観を認める力

(2) 単元目標

- 運動やスポーツが多様であることについて理解することができる。
- 運動やスポーツが多様であることについて、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができる
- 運動やスポーツが多様性に関する学習に積極的に取り組もうとしている。

(3) 重点目標

<本質的な問い>

自己の適性に応じた運動やスポーツとの多様な関わり方を見付けるにはどうすればよいか。

<永続的な理解>

運動やスポーツは人々の多様な必要性や独自の楽しさによって支えられ発展してきた。また運動やスポーツには「行う」、「みる」、「支える」及び「知る」などの多様な関わり方があり、体を動かす楽しさ、運動やスポーツの特性や魅力に応じた楽しさ、人々と協働する楽しさなどを味わう多様な楽しみ方がある。運動やスポーツの合理的な実践を通して、楽しさや喜びを味わい、それらを生涯にわたり豊かに実践できるようにするとともに、みる、支える、知るなどの多様な関わり方を通して、生きがいや身近な文化として捉えることができる。

(4) 単元の評価規準

知識	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ア 運動やスポーツは多様な楽しさから生み出されてきたこと、時代や社会の変化とともにその捉え方が変わってきたことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 イ 運動やスポーツには、「行う」「みる」「支える」「知る」などの多様な関わり方があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ウ 世代や機会に応じて、生涯にわたって運動やスポーツを楽しむためには、自己に適した多様な楽しみ方を見つけたり、工夫したりすることが大切であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	ア スポーツの必要性和楽しさについて、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。 イ 運動やスポーツの多様な関わり方について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。 ウ 運動やスポーツの多様な楽しみ方について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。ア 体の動きを高めるために、自己の課題に応じた運動を選んでいる。	ア 運動やスポーツが多様であることについてのよさを実感し、学習に積極的に取り組もうとしている。

(5) 評価の方法

パフォーマンス課題	その他の評価方法
あなたはスポーツジャーナリストです。「運動やスポーツの多様性」について、スポーツ雑誌に記事を掲載することになりました。視点は、運動やスポーツの必要性和楽しさ、運動やスポーツへの多様な関わり方、運動やスポーツの多様な楽しみ方です。これらの視点と自分の運動やスポーツに関するこれまでの経験を踏まえて記事を書いてください	○課題設定の状況 ○課題追究状況の観察 ○ワークシートの記述分析 ○「学習のまとめ」の記述分析

＜パフォーマンス課題についての予備的ルーブリック＞

	知識	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	B評価に加え、日常生活の中で活用できる場面を想定している。	B評価に加え、自己の経験や課題を踏まえて、すべての視点から根拠に基づいた具体的な事例を用いて説明している。	B評価に加え、日常生活の中で実践・活用しようとしている。
B	運動やスポーツの多様性について理解している。	すべての視点から具体的な事例を用いて説明している。	運動やスポーツが多様であることについてのよさを実感し、日常生活の中で活用できる具体的な場面を見付け出そうとしている。
C	(支援) それぞれの視点から学習内容を一つ一つ整理するよう助言する。	(支援) 運動やスポーツの場面であてはまる内容を、もう一度確認させながら、日常生活に置き換えて考えていくよう助言する。	(支援) 小集団で具体例を挙げさせることで、思考を促すようコーディネートする。

(6) 指導計画（全5時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	評価規準（評価方法）
1	- パフォーマンス課題の提示 - 運動やスポーツの起源について思考する。 - 運動やスポーツの発展と変容について思考する。 - 運動やスポーツの概念を理解する。	知 思	○	ア(振り返りシートの分析) ア(ワークシートの分析・観察)
2 ・ 3	- スポーツイベントの映像を通して多様な関わり方を見付け出す。 - 見付け出した関わり方を分析し、分類する。 - 自分に合った関わり方を思考する。	知 思 主	○	イ(振り返りシートの分析) イ(ワークシートの分析・観察) ア(観察)
4	- 写真を通して、運動やスポーツの多様な楽しみ方について思考する。 - 一つの競技での多様な楽しみ方を見付け出す。 - 多様な視点からの楽しみ方について思考する。 - 多様な楽しみ方について思考したことを伝える。	知 思	○	ウ(振り返りシートの分析) ウ(ワークシートの分析・観察)
学級活動 ・ 他の運動領域 等	○ 「スポーツを創る」(小学生とのスポーツ交流会に向けて) ・ 学習したことを生かして、みんなが楽しめるスポーツ交流会を企画する。 ・ スポーツ交流会を運営する。 ・			
5	・ パフォーマンス課題		○	・ 総括的評価

3 本単元と研究主題との関わり

(1) 生徒について

生徒 32 名（男子 16 名，女子 16 名）は，運動やスポーツの科学的知識等を体育理論として学習するのは初めてである。小学校での体育の授業や遊びを通して，多様な関わり方や楽しみ方を経験している。また，小集団や学級内での話し合い活動では，積極的に発言し多様な意見を出す生徒が多い。4 月下旬から本校の言語技術教育への取組が始まり，話し方や聴き方の手法を身に付け始めているところである。話し合い活動の中で，その成果が発揮できるような場面を設定していきたい。さらに，運動有能感（4 月と 7 月に調査）において，統制感と受容感の値は 80% を超えており，やればできるという思いや，集団で助け合いながら物事に取り組む雰囲気が伺える。また，運動やスポーツに興味がある生徒は 88% で，その中で「行う」ことに興味がある生徒が 70%，「観戦する」ことに興味がある生徒が 75% であった。

(2) 単元について

体育理論の内容は，中学生の時期における運動やスポーツの合理的な実践や，生涯にわたる豊かなスポーツライフを送る上で必要となる運動やスポーツに関する科学的知識等を中心に，「運動やスポーツの多様性」，「運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」，「文化としてのスポーツの意義」で構成されている。

これらの学習を通して，運動やスポーツの価値や意味を知的に理解するとともに，思考し，判断し，表現する活動を通して，現在及び将来における自己の適性等に応じた運動やスポーツとの多様な関わり方を見付けていくことができる。さらに，体育分野における運動の実践や保健分野と関連させながら，体育理論領域での科学的な知識の習得や，よりよい解決に向けて思考していく学習を行うことで，生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現するための資質や能力を養う基盤づくりになる。

(3) 「深い学び」の実現に向けた指導の工夫について

ア 既存の知識や経験をつなげる単元計画の工夫

体育理論の学習を通して，「する（行う）」ことだけでなく，多様な関わり方があること，勝敗に限らず多様な楽しみ方があることなどの知識を身に付けることができれば，運動やスポーツへのイメージは広がっていくと考える。そこで，体育分野における運動の実践や保健分野と関連させながら，体育理論領域での科学的な知識の習得や，よりよい解決に向けて思考していく学習を行うことで，主体的（積極的）に運動やスポーツに関わることができる力の育成につなげていく。さらに，単元の終盤には，単元を通して習得した知識を活用する場として，中学生と小学生がスポーツを通して交流するイベントを開催する。みんなが楽しめるようなスポーツ交流会にするために必要なルール（条件）や工夫について，企画から準備・運営まで，既存の知識や経験を生かして思考し実践する場を設定し，習得した知識を日常生活の中でも活用できる力につなげていく。

イ 「互いの考えを伝え合う」場面を重視した小集団活動の工夫

学び合いの場面では，中学 1 年生という発達段階からみて，要点が整理できないまま相手に自分の考えや意見を伝えようとする，上手く伝えることができなかったり，思考の広がりや深まりが十分でなかったりすることが考えられる。そこで，カリキュラムマネジメントの一環として実施している「言語技術教育」の時間に習得した手法を活用しながら意見交換を行っていく。単元を通して，「お互いの考えを伝え合う」場面を重視した小集団での活動を取り入れ，思考力・判断力が必要とされるような学習の場を増やしていく。さらに，個人の思考から小集団での合意形成を図ることができるような学習形態の工夫を行う。そしてその中で，課題解決のために協力して意見を出し合う協働の学びを発揮させる場を充実させていく。また，小集団での合意形成を図るために，自分の意見を述べる際には根拠となる理由を述べさせることで，相手が理解できるように表現することを心がけさせる。

4 本時の指導（4／5時間）

(1) 主題

運動やスポーツにはどのような楽しみ方があるのだろう～多様な楽しみ方を伝えよう～

(2) ねらい

- 世代や機会に応じて、生涯にわたって運動やスポーツを楽しむためには、自己に適した多様な楽しみ方を見付けたり、工夫したりすることが大切であることを理解することができる。
- 運動やスポーツの多様な楽しみ方について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。

(3) 展開

学習活動 (形態)	時間	○教師の働きかけ ・予想される生徒の反応	○指導の工夫 ◎評価規準(評価方法)
1 写真を通して、運動やスポーツの多様な楽しみ方について思考する。(全体)	5	○なぜ、このような愛顔(えがお)が見られるのでしょうか。 ・健闘を称え合っている ・体を動かす心地よさ ・自然に親しんでいる ・仲間との交流を楽しんでいる ・感情を表現する楽しさ	○愛顔の特徴が表れている写真を一枚ずつ提示していくことで、知識を整理しやすくする。 ○運動場面での様々な表情が見られる写真を提示することで、思考が広がるよう促す。
2 学習課題を把握し、本時の主題への方向付けをする。(全体)	2	運動やスポーツにはどのような楽しみ方があるのだろう ～多様な楽しみ方を伝えよう～	
3 一つの競技での多様な楽しみ方について思考する。(小集団→全体)	10	○「愛媛マラソン」に出場している選手は、どのような楽しみ方をしているのだろう。 ・記録に挑戦する ・完走を目指す ・達成感を味わう ・周囲を楽しませる	○前時の題材を例に挙げて考えることで、イメージしやすくする。 ○一つの種目にも、多様な楽しみ方があることに気付くような場面を設定する。
4 多様な視点からの楽しみ方について思考する。(小集団→全体)	15	○「行う」「みる」「支える」「知る」の多様な視点からの楽しみ方を考えよう。 ・ ・ ・	○それぞれの視点からの楽しみ方をイメージしやすくするために、関連する写真を提示する。 ○個人の意見を反映させながら小集団での話し合いを充実させるため、タブレットを活用して、視覚的に確認し合いながら話し合うよう助言する。
5 豊かなスポーツライフの実現について理解する。(全体)	5	○自分に合った楽しみ方を実現させるためには、どうすればいいのだろう。 ・運動やスポーツを楽しむために工夫する力が必要	○「仲間」・「空間」・「時間」を確保することで、運動やスポーツを継続しやすくなることについて触れる。
6 学習課題を追究する。(個人→全体)	10	○自分がどのような楽しみ方をしていくのか、運動が苦手な仲間にも楽しみ方をどのように伝えていくのか考えよう。 ・「私は△△で□□な楽しみ方をしたい。」 ・「△△には□□な楽しみ方があるよ。」	○並行して実施している運動領域や、日常での運動場面をから思考することで、具体的な姿をイメージしやすくする。 ◎運動やスポーツの多様な楽しみ方について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。(ワークシートの分析)
7 本時の学習を振り返る。(個人→全体)	3	○今日の学習を振り返ろう。	◎世代や機会に応じて、生涯にわたって運動やスポーツを楽しむためには、自己に適した多様な楽しみ方を見付けたり、工夫したりすることが大切であることについて、理解したこと書き出している。(ワークシートの分析)
研究の視点		○体育分野における運動の実践や、日常生活と関連させながら、課題のよりよい解決に向けて思考していく活動は、主体的(積極的)に運動やスポーツに関わっていこうとする考え方の育成に繋がるものであったか。	